

仙台経済成長デザイン

仙台市は、平成 29 年度を目標年次とする新たな成長戦略「仙台経済成長デザイン」を作りました。この戦略では、4つの数値目標を掲げ、9つの戦略プロジェクトに取り組むこととしています。観光分野の戦略プロジェクトが「ウェルカム！仙台・東北」です。

誘客・誘致の促進

戦略プロジェクト「ウェルカム！仙台・東北」では、東北全体の資源を活かした国内外からの観光客誘客、コンベンション誘致と市民のおもてなしによる仙台・東北のファンづくりを行い、「市民が愛着を持って世界に誇れる観光都市」を目指しています。

平成 27 年には、国際センター展示棟の完成、国連防災世界会議の開催、「仙台うみの杜水族館」のオープン、地下鉄東西線の開業、そして、その先には主要国首脳会議の開催（誘致活動中）などがあり、集客・観光の要素に事欠きません。

観光客入込数 2,300 万人はかなり高い目標ですが、東北各地と連携して取り組むことで、目標に近づけるものと考えます。



整備が進む国際センター展示棟と地下鉄東西線

数値目標

観光客入込数
2,300万人



交流人口拡大の経済波及は、仙台の産業構造と東北の経済に特に効果的。国際的な観光・コンベンション都市として、平成29年までに国内外からの年間観光客入込数2,300万人（平成24年比500万人増）を目指す。

提案 仙台城懸造（かけづくり）の復元

「県外から友人が来ても案内するところが少ない」「仙台城に行っても見えるのは石垣だけだ」など、仙台市にシンボリックな観光資源が不足していることが、折に触れて指摘されます。

ところで、かつて仙台城本丸の東崖際に「懸造」と呼ばれる書院造の建築物が実在したことをご存じでしょうか。

懸造は伊達家伝統の特異な城郭建築です。慶長14年(1609年)に政宗公は、仙台城本丸の懸造で、城下の花壇の鉄炮つるべを観覧しており、また家臣に料理を振る舞ったことが記録されています。

城下を見晴らすことができ、京都の清水寺の舞台を思わせるような、この懸造を復元することができれば、観光・地域活性化の起爆剤になるのではないのでしょうか。

復元には、「史実の証明」「法令の壁」「財源の確保」など、超えなければならないハードルが幾つもありますが、十分に検討に値するものと考えます。



仙台城本丸に実在した懸造

◇斎藤のりお事務所◇

〒981-3133 仙台市泉区泉中央 3-27-10

TEL & FAX 022-375-2101

ホームページ <http://www.saito-norio.net>

E-Mail info@saito-norio.net

